

## 1 研究主題

「地域に学び、主体的に追究する子どもの育成」

## 2 主題設定の理由

- 自ら問いをたて追究していこうとする姿（「なぜだろう」「知りたい」「考えたい」等）、すなわち問題解決に向かう姿において、本校の子どもは課題があり、自ら学び考え、主体的に行動する力を育む必要がある。
- 子どもにとって身近な地域において、その学習材（ひと・もの・こと）に触れながら学ぶことを通して、興味・関心を高めるとともに、主体的に学ぼうとする姿を引き出したい。
- 地域に関わる学習の中で、人とのつながりを意識し、人と関わる中で学びを得たり、自己を見つめ直したりして自らの学びを自覚したりできるような子どもを育てたい。また、地域のみならず、学級や学校の人（他者）との関わりからも学びを得られるような学習を展開したい。

## 3 主題の捉え

【地域に学び】とは

「地域」・・・小学校区、市町村、県等、子どものくらしの場でつながっている場

（年齢や生活経験によって異なる）

ふるさと教育資源（ひと・もの・こと）

～と学ぶ。 ～から学ぶ。 ～について学ぶ。

【主体的に追究する】とは

- ・誰かに求められて行うのではなく、「知りたい」「調べたい」「～したい」といった自らの意欲に支えられて問い続ける姿。
- ・疑問や課題を自分自身の課題としてとらえ、追究する姿。

## 4 めざす姿

- なぜだろう、知りたい、考えたいと思う子ども（主体的に問題解決に向かう子ども）
- 地域（や他者）に関わろうとする子ども

### 5.1 研究の視点（手立て）

#### （1）教材の開発

- 子どもの追究意欲を支える、地域にある学習材の教材化を図る。

#### （2）学習過程と問い

- 貫く「問い」を基軸とし、単元を構成する（知識と問いの構造図の作成）。

#### （3）他者に関わる学び

- 他者に関わる学習の場を意図的に取り入れる。

## 5.2 研究の視点（手立て）の具体

### (1) 教材の開発

- 育てたい姿の育成に向け、単元に必要な資質・能力を明確にする。
- 他単元とのつながりもふまえながら、子どもが課題の追究するうえでどんな「見方・考え方」を働かせたいのかを明確にする。
- 単元に必要な資質・能力、及び「見方・考え方」を踏まえ、地域にある学習材を選定し、学習の中に取り入れる。

### (2) 学習過程と問い

- 単元を通して最終的に獲得させたい知識（中心概念）を明確にし、取り上げる社会的事象を吟味する。
- 児童の思考の流れに沿った問いを工夫する。
- 中心概念や思考の流れに沿った問いをもとに、知識と問いの構造図を作成する。

### (3) 他者と関わる学び

- 他者（自分以外の子ども、教師、地域の人等）と関わる学習の機会を設け、人とのつながりを意識し、人と関わる中で学びを得たり、自己を見つめ直したりして自らの学びを自覚したりできるようにする。
- 他者と関わる学習の場としては、地域講師との学習、交流学习、発表会、話し合い活動、グループ学習、質問、インタビュー等が考えられる。

## 6 実践について

- 授業実践を行う教科等は次のものとする。
  - ・1年、2年・・・生活科
  - ・3年～6年・・・社会科
  - ・特別支援学級・自立活動等（子どもの実態に応じて）
- 各学年部で重点単元を決め、研究の視点（手立て）に沿って取り組む。
  - ・5、6年においては、学習内容の特質により、視点（1）教材の開発において、地域教材を開発することが難しい場合が考えられる。その場合は、地域（身近）との関連性を持たせるといった視点で教材研究に取り組む。
  - ・1、2年、特別支援学級においては、視点（2）の知識と問いの構造図は作成しない。ただし、単元計画（単元のおおまかな流れが分かるもの）を作成する。
    - ※1ペーパーのもので、「めあて」や「学習活動」等、単元のゴールや子どもの思考の流れが分かるもの。
- スケジュール（概要）
  - <5月～8月>
    - ・教材研究や文献調査、研修等を行い、2学期に実践する重点単元の検討を行う。
  - <9月～12月>
    - ・重点単元において、研究の視点（手だて）もとに授業実践を行う。
  - <1月～3月>
    - ・実践報告会（1月）を設け、全体で成果と課題を共有する。
      - ※詳細は「7 研究のまとめ」を参照。
- 学年部で実践内容や成果・課題等を共有しながら進める。
  - ・実践単元や実践の流れ等を、実施前に学年部で共通理解する場をもつ（作成した資料も共有する）。
  - ・実際の授業を参観することは必須ではないが、実践後の成果・課題等を学年部で必ず共有し、次の実践に生かせるようにする（単元を通じた実践であるため）。

## 7 研究のまとめ

○研究のまとめとして、1月に実践報告会を設け、全体で成果と課題を共有する。

<実践報告会（案）>

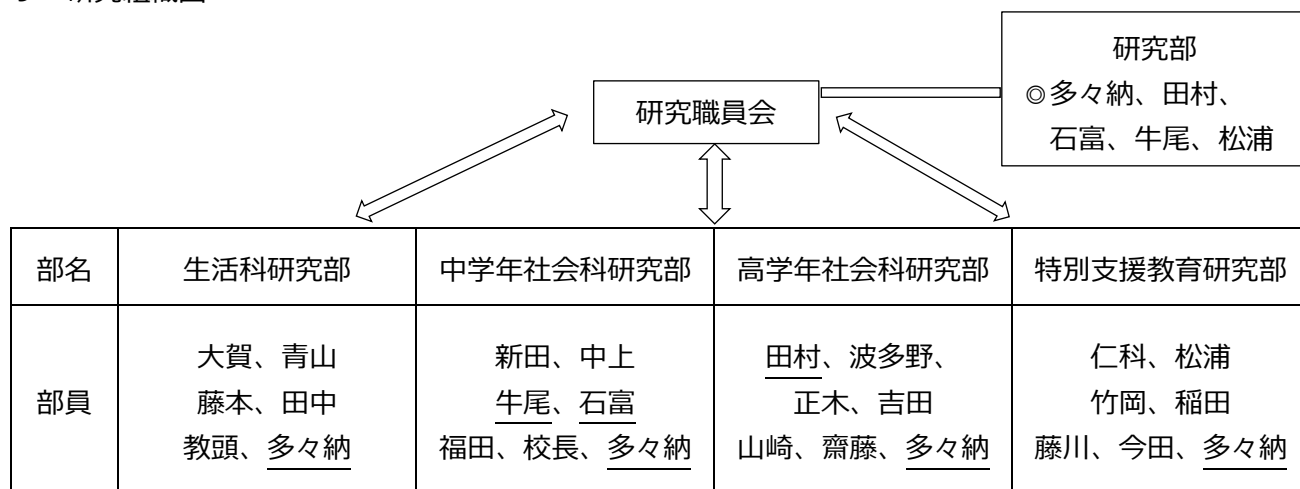
- ・ひと学年部5分程度の発表。
  - ※学級で分担して発表を行ってもよい（実践内容が一部異なる場合等）。
- ・スライド等を5枚程度作成し、発表する（発表資料と兼ねる）。
  - 発表内容の例 -
    - 1) 実践単元について
    - 2) 手立ての具体
    - 3) 活動の実際
    - 4) 子どもの様子
    - 5) 成果と課題

※詳細は後日改めて提案する。

## 8 スケジュール（予定）

時期	スケジュール	
	校内研究	全小社発表
		第 62 回 全国小学校社会科研究協議会研究大会 第 33 回 中国地区小学校社会科研究協議会研究大会 第 35 回 島根県社会科教育研究大会
4月	・研究構想の検討（研究部）	・大会概要の確認、情報収集 ・提案発表単元の決定
5月	・研究の方向性の共通理解	・発表単元の教材研究 ・指導助言者の先生との打ち合わせ
6月 7月	・教材研究、授業構想、検討	・資料の収集と蓄積 ・提案発表単元の授業実践 ・指導助言者の先生を交えた協議 ・発表資料の概要作成（7/24 提出）
夏季休業中	・校内研修会	・発表資料の作成 ・指導助言者の先生との打ち合わせ
9月 10月 11月 12月	・授業実践	・発表資料の修正 ・指導助言者の先生との打ち合わせ ・校内プレ発表会 ・大会日：10月31日、11月1日（出雲）
1月 2月 3月	・実践報告会 ・振り返り（次年度に向けて）	

9 研究組織図



◎…主任、下線…研究部